

当院における HCV 抗体陽性者拾い上げの現状と今後の活動について

◎松浦 幸子¹⁾、川村 直弘²⁾、宮城 博幸¹⁾、関口 久美子¹⁾、米山 正芳¹⁾、本山 拓也¹⁾
杏林大学医学部付属病院¹⁾、杏林大学医学部消化器内科学²⁾

【はじめに】

2016年世界保健機構（WHO）は、2030年までにウイルス性肝炎を撲滅するという戦略目標を掲げている。日本でも厚生労働省が肝炎に関する政策・制度・ガイドラインの見直しを行い、全国の医療関係施設に通達を行った。今回、HCV抗体陽性患者の受診・受療・フォローアップを確実にするシステムの構築に向け、当院のHCV抗体陽性者の数と受療状況について検討を行ったので報告する。

【対象と方法】

2022年1月から2022年12月に杏林大学医学部付属病院の臨床検査部にHCV抗体検査依頼があった症例を対象とした。検査システムを用い、患者の属性、検査結果および受診状況を抽出調査した。

【結果】

HCV抗体検査数は24,742件で、その内の弱陽性を含むHCV抗体陽性数は362件、HCV抗体陽性率は1.5%であった。重複を除外した症例数における集計についても同様の陽性率であった。診療科別では眼科の依頼が多く、検査目

的は白内障などの術前検査であった。その他の診療科においても、手術前や入院前検査として依頼されているものが多く見られた。HCV抗体陽性検体362件中、HCV-RNA検査未実施であったのは246件（68.0%）、消化器内科が未介入の検体は126検体（34.8%）で、その状況として手術前検査、単回での受診、C型肝炎の既往が多かったが、詳細が不明なものもみられた。

【考察】

今回の検討で、HCV抗体陽性でありながら、十分なフォローアップができていない症例もあることが明らかとなった。近年、HCV肝炎ウイルスは治療薬が開発され治療可能となったことから、HCV陽性者を早期に発見し治療に結び付けることが重要である。その為には、陽性者の拾い上げと、受診・受療・フォローアップを確実にする為の手順をシステム化する事が必要であると考えられる。現在消化器内科と共同してシステム作りに取り組んでおり、発表時にはその状況についても報告する予定である。

杏林大学医学部付属病院 0422-47-5511 内線：2810